

じねん
自然の
こころ

07
2021.11

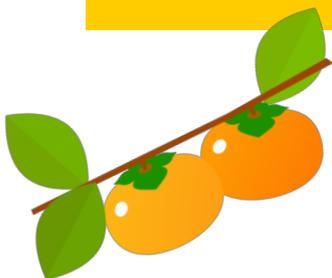


(梓川の紅葉)

「自然」とは 全世界 全宇宙の万物はまさに「自ずから然るべく」存在し動き流れているという思想です。自然流の会はその「自ずから然るべくあるがままに」という概念を、日々の生き方、暮らし方の規範として捉え、その生活活動を支える会です。

目次

- 松永相談役からのお便り
- 小林住宅工業モデルハウス「レジリエンス住宅」
- 森からの便り-I 会員・小林照夫氏
- 太陽の家たより
- 会員ニュース エンジェル・ファームさん りんごのお知らせ
- 編集後記



松永相談役からのお便り



当会は2001年、SHS友の会を設立後、2004年「NPO 法人シックハウスにしない会」2009年「株式会社自然流の会」2011年に「一般社団法人自然流の会」と組織変更を重ねて参りました。理想と現実の難しさを痛感し、挫折の連続と道なき道であります。理想を現実にする設立理念は20年経過しても色褪せることはありません。

ふり返って考えると、昔の家の主な建築材料は「木」と「土」という100%自然素材で造られ理想の住宅文化であったように思います。しかし、戦後焼野原となった国土から、恐るべき短期間に高度経済成長発展を遂げた日本の住宅は、プラスチック建材で建てる家に変貌してきました。これでは「住む人の健康は守れない」「何とかしなければならない」と言う考えの基に「自然流の会」は設立されました。当会はその理念の実現に一歩でも近づく家造りを追求するため、家造りに関連する仲間への啓蒙活動を進め、これから我が家を建てよう計画されている方々の双方に家造りの基本を提案して行く活動を展開しています。

昔は「家を建てる」と言う言葉から、現在は「家を買う」と言う言葉に変わり、考え方が変貌してしまいました。「建てる」と言う考え方には健康な生活が出来る、そしてきちんとした品質の家に住みたいと考えがベースにありますが、「買う」と言う考え方には「高いか安い」と、本来求めるべき住宅の質よりも建築費の事が第一優先になってしまい、少しでも安くそしてどこよりも高い品質で購入したいと思ってしまう。しかし工業製品とは違う建築ではそのようなことはなく、コストカットは品質の低下が大量生産でしかできないのです。

大抵の人にとって一生に1回しかない住まいづくりは人生最大の大事業です。健康で安全に家族が安心して過ごせる家は「造る側」と「建てる側」とが一体となって協力しあい、そして相互が最大の努力をすることで適正な価格の元に実現するのではないのでしょうか？

「自然流の会」の役割は、良い住宅を提供するために、この理念を普及させていく運動を推し進めていく事です。一人でも多くの方の参加をお待ち致しております。

2021年10月7日 自然流の会 相談役 松永末男

松永末男 相談役 プロフィール



長崎県佐世保市出身

1944年 1月生

1967年 ナショナル産業(株)設立 常務取締役

1984年 (株)マツナガ設立 代表取締役

1990年 (株)グローバル設立 取締役

2001年 SHS友の会

(シック=S ハウス=H しない=S) 設立に参画

※現在の一般社団法人自然流の会

現在 (株)マツナガ 会長

一般社団法人 自然流の会 理事相談役

(株)マツナガ

「熱をデザインする」をテーマに、省エネ、エコロジー、快適な住環境を目指し、温熱環境を中心とした調査、研究、開発、各種建築材料の販売・施工や輸入販売まで行っています。

<https://www.ms-matsunaga.jp/>



小林住宅工業 モデルハウス 完成によせて



自然流の会 会員の(株)小林住宅工業さんのモデルハウスが完成しました。そこで、代表の小林栄利子さんに、モデルハウスについてお話をうかがいました！



自然流レジリエンス住宅「和らぎの家」



柳澤:この度は小林住宅のモデルハウス「レジリエンス住宅」の完成おめでとうございます。このモデル住宅についてお話を伺いたしたいと思います。

聞き手:柳澤泰博 (自然流の会 理事長)

話し手:小林栄利子 (小林住宅工業・代表取締役)



柳澤:まず、今回のこのモデルハウスについて、どのようなコンセプトを描いた住宅ですか？

小林:この度は、インタビューをいただきありがとうございます。
今回、「レジリエンス住宅」をモデルハウスとして建設したコンセプトは、「平時は健康を、災害時には命を守る家」でした。

柳澤:これまで小林住宅が建ててこられた「自然流健康の家」と、このモデルハウスとの関係をご説明ください。

小林:これまで当社では「健康な暮らし」を求めて50年以上にわたり家づくりを行ってまいりました。しかし、次の50年を見据えた時には、毎年のように頻繁に起こる災害から家族を守ることも、これからの住まいの機能として求められる、と考えています。
このことを、こばじゅうのミッションとして捉え、社内でチームをつくり、レジリエンス機能とは具体的にどのようなものであるか、を議論し仕様を決めていきました。



・写真左:蓄電池
→災害時災害時に、必要最低限の電気を供給可能にすることを目的に導入

・写真右:貯水タンクと浄水器
→災害時であっても、どの蛇口からも「おいしい水」が飲めます。





自然流のこだわり…を、ぎゅっと つめこんで☆



柳澤：特にご提案したい点やこだわったところ、その特徴を教えてください。

小林：平時の健康にもこだわりました。

壁に液状の炭を塗り、マイナスの電流を流すことにより室内空間をマイナスイオン化する「スミキャス」という設備を寝室に、またナノミストを発生するサウナ設置いたしました。いずれも臨床実験を行いNK（ナチュラルキラー）細胞の活性効果があることが国内外の学会にて発表がなされているようです。コロナ渦で、社会の在り方がガラッと変わってしまいましたが、我が家（マイホーム）では家族みんなが安心して暮らしを送ることができるよう、そんな住まいを実現しました。



スミキャス
→内壁に塗装した液状炭と電気のおかげで室内の空気を快適で健康な状態に



モデルハウス見学をご希望の方は
株式会社小林住宅工業までご連絡ください

TEL : 0120-70-1093

Mail : e-koba@kobajyu.co.jp

HP: <https://kobajyu.co.jp/>

担当：小林

ご連絡お待ちしております！



これからの小林住宅の「自然流健康の家」づくりを伝える核となる提案型モデルハウスということで大いに期待しております。
ありがとうございました。
(柳澤)

森からの便り - 1



会員 小林照夫 氏

私は以前より森林活動に参加しており今回は、これまで毎月休むことなく森林整備活動を続けている「NPO 緑のダム北相模」のメンバーと一緒にいった、去る 6/19(土)～6/20(日) 相模湖畔にある山小屋「草莽荘」の庭での竹炭造りのご報告をいたします。(因みに「草莽荘」は維新の騎士「吉田松陰」が在野の人々を集めて国を変えるため維新へと立ち上がらせた思想「草莽崛起」から命名したものです。)



19日の朝9時に相模湖駅に、私を含めた森林インストラクターを中心に6名が集まりました。あいにく終日雨模様の天気予報でしたが、森の中では樹木の屋根があるので、少々の雨では活動を中止することはありません。炭焼きに精通した人に来ていただき、ご指導いただきました。

まず乾燥させた竹を 30 cmの長さに切り、20 本程度を一束にします。(写真1)そしてドラム缶を利用して作成した「竹炭窯」の底に「スツール」と呼ぶ金スノコを敷き、その上に竹の束を2段積み込み、その上にも竹を敷並べ詰め込みます。



写真①

(写真2)ドラム缶を密閉し、周りを 15センチくらいの砂で埋めます。ここでいよいよ火入れをすることになります。ドラム缶の下方に開けた焚口前で火を起し、90分くらい火を入れ、手前の竹を燃やし煙の色が変わったところで、全ての酸素を遮断するところから本格的に竹炭作りが始まります。泥をこね隙間という隙間を埋め空気をシャットアウトすると、燃えた煙に火が付き7時間くらい蒸し焼き状態が続き、匂いが消え次に煙が透明になると竹炭の出来上がりです。窯の中は 850 度まで上がり 600 度程度をキープするイメージです。その間我々はブルーシートで雨を凌ぎ、夜2時ころまで酒を交わしながら親交を深める至高の時間を将来忘れることはないでしょう。日本で縄文の時代から続いた炭焼きの良さが分かったような気がしました。その間我々はブルーシートで雨を凌ぎ、夜2時ころまで酒を交わしながら親交を深める至高の時間を将来忘れることはないでしょう。



写真②



さてこの森林活動には毎回、東京学芸大学付属中高生と卒業生の若者が 30 人程集まるので、今回も竹炭の勉強に 30 人が来てくれることになっていました。そんなことで何としても竹炭を完成させ、ご両親へのおみやげとして持ち帰り喜ばしてあげたいので、失敗するわけにいかないのです。

そして次の日は雨も上がり、10時には 25 名の中高生が山小屋まで上がってきてくれました。少し早い気がしましたが、いよいよ窯の蓋を開けてみる。

「ワー・・・」と歓声があがった。こちらもびっくりしたが、ちゃんとした竹炭が出来上がって、皆で協力して炭出しの手伝いをしてくれました。炭の下の段になると火のついた竹が残っていました。火があると空気に触れバックファイヤーという現象が起き、炭に一瞬で火が回ることもあるので、焼き終わった後はしっかり窯を冷ますことが重要であることも勉強しました。

こうして炭焼の神秘と楽しさが学生のみならずにも伝わったようで、疲れも飛んで、楽しい思い出だけが残る経験を味わいました。「また炭を焼こうね！」が嬉しい！





中秋「太陽の家」



「太陽の家」から望む 乗鞍岳と朝日



安房峠 R158 旧道の紅葉

会員ニュース

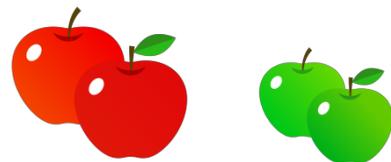
エンジェル・ファーム(りんご園)からのお知らせ



自然流の会会員でもある長野県須坂市のエンジェル・ファームでは10～11月がリンゴの収穫の最盛期です。リンゴは無農薬で作るのは非常に難しいそうで、市場に出ているリンゴには農薬が多く使われています。エンジェル・ファームでは安全で、美味しいリンゴをお届けしたいと農薬の使用量を最低限に抑え70%減で取り組んでおられます。

通常5月初め頃がリンゴの花の開花時期ですが、今年は温暖化の影響で開花が1ヶ月程早まり、花が咲いてから遅霜に会い大きな被害が出たようです。しかし、皆様には被害を受けていない美味しいリンゴをお届けするので、ご安心下さいとの事です。

お値段 5kg/箱で2000～3100円/箱(箱代・送料・消費税別途)
10kg/箱で3900～6200円/箱(//)



ご注文等、詳しくはHP『angelfarm いのちの大地』で検索してください。

【お問合せ先】長野県須坂市野辺町617 TEL 080-6756-2182 FAX 026-285-9423

Mail: angel333@nifty.com

編集後記

コロナ コロナの1年でしたが、罹患者が減少傾向にある事は何よりです。

そんな中「自然のこころ」復活版は本年5、6、7号をお届けすることが出来ました。

内容的に未熟な点や読み辛い箇所も多々あるかと思いますが、編集の素人の作成につきご容赦ください。

会員全員参加の冊子としたいと考えています。

7号はエンジェル・ファーム様の減農薬リンゴをご紹介しましたが、「我が社の商品」や「我が社の行事」「私の自慢」など皆様の情報を事務局まで是非お寄せ下さい。是非掲載させて頂きたいと思います。

ご投稿お待ちしております。(佐原榮子)

